

塗 装 仕 様 書



ROCK PAINT

塗装略号	: EP-G
塗装仕様	: つや有合成樹脂エマルジョンペイント(塗り替え)
上塗り塗料名	: 072ライン ユニロックハイグロス
規格	: ー
素材	: コンクリート・モルタル、スレート板、ALC、窯業系サイディングボードなど
部位	: 外壁

工 程	塗 料 と 施 工 内 容	シンナー名 希釈率%	標準塗付量 kg/m ² ・回	標準膜厚 μm・回	塗り重ね 可能時間 (23℃)
1	下地調整				
2	主材・ 下地調整材				
3	上塗り				
4	上塗り				

施工上の要点および注意事項

- ・ 塗料をよくかき混ぜ、均一にしてから使用してください。
- ・ 塗装作業中および乾燥中は換気を十分行い、その後も塗膜が完全に乾くまでの間は、ときどき換気を行ってください。
- ・ 気温が低いとき、湿度が高い場合には完全な塗膜ができにくく、十分な性能を発揮できませんので、塗装中および塗装後24時間は5℃以下にならない場所で使用してください。また湿度が85%以上の場合は塗装を避けてください。
- ・ 絶えず結露が発生するような場所、用途での使用は避けてください。
- ・ 飛散防止のため必ず養生を行ってください。特に吹付け塗装の場合は注意してください。
- ・ ハケ・ローラーなどの塗装用具は水性用を使用してください。
- ・ 使用後のハケなどの用具や、手に付いた塗料はできるだけ早く水で洗い落してください。乾くと落ちにくくなります。
- ・ 乾燥した塗膜に付着した汚れはシンナーなどで拭かず、中性洗剤で洗浄してください。
- ・ 降雨、降雪、強風などの場合、また、天候不良の恐れがあるときは、外部の塗装は避けてください。
- ・ 塗る面のゴミ、かび、こけ、油分、枯葉などの汚れや、はがれかかった塗膜はよく取り除いてください。
- ・ 硬くてまだツヤのある塗膜や、吸い込みの無い面に塗装する際は、あらかじめサンドペーパーで面を荒らしてください。
- ・ 下地、旧塗膜が脆弱な場合、また素材が強アルカリ性であることが予想できる場合は、弱溶剤型シーラーを使用してください。また改修塗装で弱溶剤型のシーラーを使用した場合、旧塗膜の種類によっては溶剤の影響により、ふくれ、ちぢみなどが発生することがありますので、試し塗りをした上で本塗装を行ってください。
- ・ 改修塗装の場合、脆弱な旧塗膜、汚れ、チョーキングなどはディスクサンダー、皮スキ、ワイヤーブラシなどで除去し、高圧洗浄を行った後、24時間以上乾燥させてください。(気温20℃、湿度65%の場合)
- ・ 改修塗装の場合、下地の種類や処理方法によって付着不良やリフティング等の塗膜不良となる事があります。あらかじめ適切な処理を行い試し塗りをを行った後、仕様を決めてください。
- ・ 旧塗膜が弾性系の塗膜(弾性リシン、弾性スタッコ)やアクリル樹脂エナメルなどの場合、すでにふくれが発生していることがあります。そのまま塗装するとふくれが拡大することがありますので、ふくれ箇所は完全に除去してください。
- ・ 旧塗膜が活膜の場合、表面荒らしが必要な場合があります。またフッ素樹脂塗料への塗り替えには使用できないことがあります。弊社担当営業にお問い合わせください。
- ・ フッ素コート処理をはじめ無機系や光触媒処理のサイディングボードには適応しておりませんので、塗装は避けてください。工場塗装板(フッ素、無機系や光触媒処理)の難付着サイディングボードには、専用シーラーの「ハイパーシーラーエポ」をご使用ください。
- ・ 下地の種類、状態によっては、下塗りや表面荒らしが必要な場合があります。
- ・ 吸い込みの多い面などを塗る場合は、各種ロック建築用シーラーで適切なものを使用してあらかじめ下塗りをしておいてください。
- ・ 大きな素穴、目違い、不陸、クラックなどはセメントフィラー、樹脂モルタルで補修してください。補修後はシーラーを塗装してください。エマルションパテの外部での使用は避けてください。
- ・ シーリング材の上に塗装する場合、シーリング材の種類、劣化度により付着不良、収縮われなどを起こしたり、表面が汚れたりすることがあります。状況によっては、シーリング材用プライマー「ロックノンタックプライマーS」を塗装してください。塗膜の汚染・剥離・はがれ・割れの低減が図れますが、シーリング材の種類によっては汚れ、付着不良が発生する場合がありますので試し塗りをすることをお奨めします。なお、ノンブリードタイプのシーリング材に「ロックノンタックプライマーS」は塗装しないでください。
- ・ 笠木、天端など長時間水の滞留する箇所では塗膜の白化、ふくれなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
- ・ 蓄熱されやすい建材(軽量モルタル、ALC、窯業系サイディング、その他の断熱性が付与された建材など)を使用した高断熱型住居の外装を塗装する場合、状況により蓄熱、水分、素地、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、素地の変形、塗膜のふくれ、はがれなどが発生する場合があります。詳しくは最寄りの営業所にお問い合わせください。
- ・ 可塑剤が多く含まれる建材(塩ビ鋼板、ラッピングシート、クロスなど)への施工は避けてください。可塑剤が表面に移行し、塗膜のべたつきが発生します。
- ・ サイディングボードは種類により塗料が付着しにくいものがありますので、塗装の際は事前に確認の上、施工してください。
- ・ けい酸カルシウム板へ塗装する場合は、種類、劣化の度合いによっては付着不良を起こす場合がありますので、試し塗りをすることをお奨めします。
- ・ 外部の塗装について、塗料臭気が室内に入らないように換気装置などを停止し、開口部などの養生を行ってください。
- ・ 塗膜が完全に乾燥する前に、降雨、結露等があると、白化やしみが残る場合があります。また、低温時や高湿度、通風が悪い場合も白化やしみになる場合があります。
- ・ 旧塗膜が弾性型塗料でロックSBフィラーを使用して塗り替えを行う場合、あとの工程で複層仕上塗材(硬質タイル)は使用しないでください。クラックが生じる場合がありますので弾性系の塗材を使用してください。
- ・ ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向にそろえるように仕上げてください。ローラー目により、色相が異なって見えることがあります。

塗 装 仕 様 書



塗 装 略 号	: EP-G
塗 装 仕 様	: つや有合成樹脂エマルジョンペイント(塗り替え)
上 塗 塗 料 名	: 072ライン ユニロックハイグロス
規 格	: ー
素 材	: コンクリート・モルタル、スレート板、ALC、窯業系サイディングボードなど
部 位	: 外壁

- ・ 上塗り塗料の調色には、072ライン ユニロックハイグロス原色または、ロックトーンカララント7000番級（ベースの7%以内）を使用してください。
- ・ 新設塗装の場合は素地に適したシーラー・プライマー・フィラー等を下塗りしてください。
- ・ 塗装間隔（乾燥時間）は塗装現場の温度、湿度、風通し、素地の状態などにより多少変わります。
- ・ 塗装間隔は守ってください。塗装間隔が長くなりますと付着性が低下して上塗り塗料と層間剥離を起こすことがありますので注意してください。
- ・ 各工程の塗装間隔、塗付量や希釈量を守らなかった場合塗膜不良となることがあります。また、各工程において当社指定以外の材料を使用した場合は十分な性能が得られないことがあります。
- ・ 下塗り塗料塗装後、塗装仕様の塗り重ね可能時間よりも早く上塗り塗装を行うと、ちぢみ、ひび割れ、塗膜不良を起こすおそれがありますので、塗り重ね可能時間は守ってください。
- ・ 塗装後24時間以内に降雨、結露があった場合、白化やシミが残る場合があります。また、低温時や高湿度、通風が悪い場合も白化やシミになる場合があります。
- ・ 塗装方法により多少色相が異なることがありますので、入り隅のハケ・ローラー境目はできるだけ奥までローラー塗装してください。
- ・ 仕様書の数値は標準的な塗装を行う際のもので、標準塗付量は塗装時のロスを考慮に入れた数値です。素地の状態、気象条件、塗装方法などによって異なる場合があります。
- ・ スプレーノズルの先端は、時々洗浄してください。作業能率の低下および塗りムラの原因になります。
- ・ 補修部分が目立つことがありますので、補修塗りの場合は同一ロットの塗料を使用し、同一の塗装方法、希釈割合で行ってください。
- ・ 塗色が濃い場合、塗膜を強くこすると色落ちすることがありますので注意してください。
- ・ この仕様書はすべての工程においてホルムアルデヒド放散等級F☆☆☆☆を使用しています。F☆☆☆☆以外の材料（被塗物、素地を含む）を使用したり、各工程の塗装間隔や塗付量、希釈量を守らなかった場合、F☆☆☆☆でなくなることがありますので注意してください。
- ・ カタログに記載されていない素地及び塗装方法、工程で施工する場合、塗膜欠陥を起こすことがありますので、使用する前に最寄りの営業所へお問い合わせください。
- ・ 本仕様中の製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引き渡しの際は、施主に対して安全性に十分注意を払うようご指導ください。
- ・ 不特定多数の方が利用する施設を施工した場合は、ペンキ塗りたてであるなどの立て看板等を設置し、化学物質過敏症並びにアレルギー体質の方が接することのないようにご配慮願います。
- ・ 掲載されている塗料の詳細な使用方法については、それぞれのカタログをご参照ください。
- ・ 労働災害事故防止のため、取扱いの際は製品容器の注意書き、製品カタログおよび安全データシート（SDS）をよく読み、注意事項を厳守してください。